

命の経験の第四段階へと入り、  
完全に成長した人に到達して神の定められた御旨を完成する

(土曜日——午前の第一の部)

メッセージ 7

完全に成長した人に到達する (1)

キリストをわたしたちのパーソンとし、そして神・人の生活をする

聖書：ガラテヤ 2:20. エペソ 2:15. 4:24. 3:17 前半. コロサイ 3:10-11. ピリピ 1:21 前半

I. わたしたちは完全に成長した人に到達して神の定められた御旨を完成するために、キリストをわたしたちのパーソンとする必要があります——ガラテヤ 2:20. エペソ 3:17

前半：

A. 新しい人のために、わたしたちはみなキリストをわたしたちのパーソンとする必要があります——2:15. 3:17 前半：

1. キリストはからだの命であり、また新しい人のパーソンです——コロサイ 3:4. エペソ 3:17 前半。
2. 一人の新しい人の中で、天然の人に地位はありません。新しい人の中で、わたしたちにはみな地位はありません。なぜなら、ここではキリストがすべてであり、すべての中におられるからです——コロサイ 3:10-11。
3. キリストはわたしたちすべての中にいるので、わたしたちはみなただ一つのパーソンを持っています——1:27. エペソ 3:17 前半。
4. 神が関心を持つのは、わたしたちがキリストをわたしたちのパーソンとしているかどうかです——ヨハネ 6:57 後半. ピリピ 1:21 前半. コロサイ 3:4. エペソ 3:17 前半。
5. 第一のことは、キリストをわたしたちの命とすることではなく、キリストをわたしたちのパーソンとすることです：
  - a. わたしたちはキリストをわたしたちのパーソンとするなら、必ず彼をわたしたちの命とします——I ヨハネ 5:11-12. コロサイ 3:4。
  - b. わたしたちはキリストをわたしたちのパーソンとするなら、成長して円熟することができます——2:19. エペソ 4:13-16。
  - c. キリストをわたしたちのパーソンとすることは、新しい人の成長のためです——13 節。

B. わたしたちがキリストをわたしたちのパーソンとして生活をするとき、特に決定をすることで彼をパーソンとするとき、わたしたちの生活は新しい人の生活となります——ヨハネ 4:34. 5:30. 6:38. 17:4. ローマ 15:32. ヤコブ 4:13-15：

1. 新しい人の中で、わたしたちはキリストをわたしたちのパーソンとして、計画を立て、どのように生活すべきかを決定します——ローマ 15:32。
2. わたしたちはキリストをわたしたちのパーソンとするなら、わたしたちの生活の中で何も自分自身によって決定しないでしょ——ピレモン 14 節：
  - a. わたしたちはいったん自分が一人の新しい人の一部分であることを見るなら、

単に自分自身だけで事を決定することができなくなります。

- b. わたしたちは新しい人の一部分であるので、わたしたちの決定と生活はわたしたちのものであるべきではなく、団体の新しい人の決定と生活であるべきです。
- c. 新しい人の生活は団体の生活です。ですから、わたしたちの決定は団体の決定であって、わたしたち個人の決定ではありません——I コリント 4:19。

3. パウロは、キリストをわたしたちのパーソンとすることの模範です——I テモテ 1:16. ガラテヤ 1:15 前半, 16 前半. 2:20. 4:19. エペソ 3:17 前半. ピリピ 1:8. 2:5. II コリント 2:10。

C. 一人の新しい人としての召会のために、わたしたちはみな語る事柄において、キリストをわたしたちのパーソンとする必要があります——マタイ 12:34-37. エペソ 3:17 前半. ヨハネ 7:16-18. 8:28, 38 前半. 12:49-50. 14:10 :

1. 一人の新しい人には一つの口があって、同じ事を語ります——ローマ 15:6. I コリント 1:10。

2. わたしたちはエペソ第 2 章 15 節の「一人の新しい人」を、ローマ第 15 章 6 節の「一つの口」、そして I コリント第 1 章 10 節の「同じ事を語り」と一緒に考える必要があります :

a. ただ一人の新しい人があり、一人の新しい人はただ一つのパーソンを持っているので、一人の新しい人は一つの口で語り、同じ事を言います。

b. 「一つ思いをもって」と「一つの口で」(ローマ 15:6) が意味するのは、わたしたちは数が多く、みな語っていても、わたしたちはみな「同じ事を語」ということです——I コリント 1:10 :

(1) 召会是一人の新しい人であって、ただ一つのパーソン、キリストを持ち、このパーソンはわたしたちの語ることを支配します。ですから、彼が語ることは何であれ、必ず「同じ事」です。

(2) わたしたちの語る中で、キリストをパーソンとするなら、一つの口があり、あらゆる人は同じ事を語ります。

c. 一人の新しい人の中には、ただ一つのパーソンであるキリストがおられ、ただこのパーソンにだけ語る自由があります。わたしたちが自分自身の事を語る自由はありません——マタイ 17:5。

3. わたしたちは数が多く、多くの場所から来ている、みな一つの口を持っており、みな同じ事を語ります。これは、わたしたちがみな一人の新しい人であり、ただ一つのパーソンを持っているからです——エペソ 2:15. 4:22-24. 3:17 前半. ローマ 15:6. I コリント 1:10。

II. わたしたちは完全に成長した人に到達して神の定められた御旨を完成するために、神・人の生活をする必要があります——ガラテヤ 2:20. ピリピ 1:21 前半 :

A. キリストの中で、神と人は一つの実体、すなわち神・人となっています——ルカ 1:35. ヨハネ 1:14. マタイ 1:18, 20-23。

B. 初めに、聖書はひとりの神・人について語っています。今日、この神・人は、神・人たちとなっています——ローマ 1:3-4. 8:29 :

1. 主イエスは第一の神・人であり、原型であって、多くの神・人を生み出すため

す（Ⅰペテロ 2:21）。多くの神・人は彼の複製です。

2. 神は人と成って（ローマ 8:3）、ご自身の大量の複製を持ち、それによって新しい種族を生み出しました（29 節、ヘブル 2:10）。この新しい種族は神・人の種族です。

3. わたしたちは、わたしたちが神・人であり、神から生まれ、神の命と性質を所有し、神の種類に属していることを見る必要があります——ヨハネ 1:12-13。

C. 一人の新しい人は団体の神・人です——エペソ 2:15, 4:24, コロサイ 3:10-11 :

1. 第一の神・人、神の長子は、この団体の神・人のかしらです。多くの神・人、神の多くの子たちは、この団体の神・人のからだです——ローマ 8:29, コロサイ 1:18, 2:19。

2. 神・人たちは、神の再生された子供たちとして、新しい人を構成します——エペソ 5:1, 4:24 :

a. 一人の新しい人は団体の人であり、この団体の新しい人はすべての神・人の集大成です—— 2:15。

b. キリストは死と復活を通して、多くの兄弟たちを生み出しました（ローマ 8:29, ヘブル 2:11）。彼らと彼は、宇宙的な一人の新しい人となっています。これは団体の神・人であり、神であり人であり、人であり神です。

D. 団体の神・人としての一人の新しい人のために、わたしたちは神・人の生活をする必要があります——ピリピ 1:19-21 前半, 3:10 :

1. キリストの人の生活は、人が神を生きて、人性の美徳において神の属性を表現することでした——ヨハネ 6:57 前半, 14:10 :

a. 彼の人性の美徳は神聖な属性で満たされ、それとミングリングされ、それで浸透されていました——ルカ 1:26-35, 7:11-17, 10:25-37, 19:1-10。

b. 主イエスは神を生き、あらゆることで神を表現しました。彼が行なったことは何であれ、神が彼の内側から、彼を通して行なったことでした——ヨハネ 14:10-11。

2. わたしたちは第一の神・人の拡張、増し加わり、複製、継続として、彼が生きたのと同じ種類の生活をすべきです——Ⅰヨハネ 2:6 :

a. 主の神・人の生活は、わたしたちの神・人の生活のために、原型を設定しました。それは、十字架につけられて生き、神が人性において表現されることです——ガラテヤ 2:20。

b. 神・人の生活をした方は、今やその霊であり、わたしたちの中で、わたしたちを通して生きています。わたしたちはこの方以外の何にも、わたしたちを満たし占有させるべきではありません——Ⅱコリント 3:17, 13:5, エペソ 3:16-19。

3. 卓越したキリストを知る神・人は、キリストの復活の力によって、彼の死に同形化される生活をすべきです——ピリピ 3:8, 10。

4. キリストがその中に生きている神・人は、キリストの霊の満ちあふれる供給によってキリストを生き、キリストを大きく表現すべきです——ガラテヤ 2:20, ピリピ 1:19-21 前半。

務めからの抜粋 :

## キリストのパーソンを経験して召会の中で生きる

たとえわたしたちはエペソ人への手紙第 1 章にしたがってわたしたちの霊に触れるとき、召会の中へと入ることができても、第 3 章にしたがってわたしたちの内なる人の中でキリストのパーソンにしたがって生きてはじめて、召会生活を持つことができます。第 3 章でわたしたちの霊は器官であるだけでなく、わたしたちの内なる人でもあります（16 節）。わたしたちが救われる前、わたしたちのパーソンは魂を中心としていました。なぜなら、わたしたちの命は魂の中にあっただからです。その当時、わたしたちの霊も体も器官でした。わたしたちの体は外なる器官であり、わたしたちの霊は死んだ内なる器官でした（2:5）。ですから、わたしたちのパーソンはわたしたちの魂と関係がありました。わたしたちが再生された後、主はわたしたちの霊の中へと入って、わたしたちの命となりました。今やわたしたちの霊は命を持ち、もはや器官ではなくパーソンです。

わたしたちの内側には二つのパーソンがあります。一つはわたしたちの魂と関係があり、もう一つはわたしたちの霊と関係があります。これはあらゆる信者の内側に複雑さを作り出します。なぜなら、この二つのパーソンは互いに争うからです。この争いから救い出される道は、十字架にわたしたちの魂の命を、すなわち、わたしたちの古い人を対処させることです。わたしたちの古い人、わたしたちの魂のパーソンのための唯一の場所は、十字架です（ローマ 6:6）。わたしたちの古い人はすでに十字架につけられており、十字架上にとどまっている必要があります。わたしたちの魂の命が十字架につけられるとき、わたしたちの霊の内なる人は生きます。惜しいことに、たとえわたしたちがすでに救われており、わたしたちの霊が新しくなっているにもかかわらず、わたしたちの内なる人はあまり強くありません。むしろ、古い人、わたしたちの魂がまだとても強いのです。こういうわけでパウロは、御父が力をもって、彼の霊を通して、信者たちを内なる人の中へと増強してくださるようにと求めたのです（エペソ 3:16）。

## 召会は一人の新しい人である

わたしたちはしばしば、召会はキリストのからだであることを聞きますが、召会はパーソンであることをほとんど聞きません。召会はキリストのからだであるだけではありません。召会はまたパーソンです。エペソ人への手紙第 2 章 15 節から 16 節は言います、「数々の規定から成っている戒めの律法を、彼の肉体の中で廃棄されたからです。それは、彼がご自身の中で、二つのものを一人の新しい人へと創造して、平和をつくるためであり、また十字架を通して、両者を一つからだの中で神に和解させるためでした。それによって敵意を殺してしまったのです」。主はご自身の中で、二人の人（ユダヤ人と異邦人信者たち）を一人の新しい人へと創造しました。16 節によれば、新しい人はキリストのからだです。召会は一人の新しい人であり、この新しい人のパーソンはキリストです。

召会の中で、わたしたちのだれも個人のパーソンではありません。わたしたちはみな肢体です。わたしは肢体であり、あなたは肢体であり、わたしたちはみな肢体です。わたしたちは一つからだの中で結合されており、この一つからだはパーソンです。たとえ今日ここに五千人がいても、わたしたちは五千のパーソンでしょうか、それとも一つのパーソンでしょうか？ わたしたちは一つのパーソンです。なぜなら、わたしたちは数が多くても、召会の中にはただ一つのパーソン、すなわち、主イエスだけがあるからです。

キリストがわたしたちのパーソンであり、わたしたちが彼によって生きるとき、わたしたちの霊の中の命はわたしたちの思いの中へと入り、わたしたちの思いの中で支配します。その結果、わたしたちは思いの霊の中で新しくされます。わたしたちの思いが新しくされるとき、わたしたちは新しい人を着ます。新しい人は召会です（4:23-24）。わたしたちが新しい人としての召会を着るとき、召会は成長して円熟へと至り、キリストの花嫁となり、キリストの勝利を展覧して神の栄光へと至ります。この時点で、召会は栄光であり、円熟し、豊富です。主はここに住んでおられ、わたしたちはこれを待ち望んでいます。この数日間、主は加速された方法を取って、この目標に到達しようとされます。召会は新しい人であり、キリストをわたしたちのパーソンとしています。（召会生活のためにキリストをわたしたちのパーソンとする、第1章）

### キリストをわたしたちのパーソンとすることと召会の一

召会は器またからだけではありません。召会はまた人です。人として、召会は一人の新しい人です。この新しい人は、まき散られた個人から成っているではありません。それは大きな団体の人です。この大きな団体的人是霊の中の人であり、この人のパーソンはキリストです。召会は単にキリストの力とキリストの命を経験するだけでなく、キリストのパーソンを経験しなければなりません。この経験はあらゆる聖徒にとって実際にならなければなりません。

召会における真の一は、わたしたちがみなキリストをわたしたちのパーソンとした結果です。わたしたちがみなキリストをわたしたちのパーソンとすると、召会は一となります。

わたしはある日、地方召会がこの点に到達すると心から信じます。主は絶えずわたしたちの間で働いて、ついにわたしたちがみなキリストをわたしたちのパーソンとするに至るでしょう。

### 愛のゆえにキリストをわたしたちのパーソンとする

わたしたちは、キリストをわたしたちのパーソンとすることが、彼をわたしたちの王として御座に着け、あるいはわたしたちのかしらとしての彼に服従することであると考えべきではありません。しばしばわたしたちが、「おお、主よ、あなたはかしらであり主です」と言うとき、彼はあまり幸いではありません。なぜなら、わたしたちはまだ彼の願いを中心としていないからです。しかしながら、わたしたちは愛から自分のパーソンを拒絶し、彼をわたしたちのパーソンとすると、主に従うだけでなく、彼に尋ねるでしょう。例えば、わたしたちは言うでしょう、「主よ、あなたは店に行こうとしているのでしょうか？

もしあなたが行こうとされないなら、わたしは行きません」。わたしたちが店に行くのは彼が行こうとされるからであるなら、わたしたちは何を買う前にも、なおも彼に尋ねるべきです。そのような実行は主を畏れることと関係があるのではなく、彼を愛し、彼をわたしたちのパーソンとするのを願うことと関係があります。

### 召会は再臨におけるキリストを受け入れる用意をし、備える

わたしたちはこの段階に達するなら、すべてを超越するキリストの愛を知り、わたした

ちの計り知れない主の広さ、長さ、高さ、深さを会得します。さらに、わたしたちは思いの霊の中で新しくされて、古い人を脱ぎ捨て、新しい人を着ます。新しい人は召会です。わたしたちは実際に召会を着て、実際に召会生活をします。古い人を脱ぎ捨てるとは、人の社会におけるわたしたちの以前の生活様式を脱ぎ捨てることであり、新しい人を着るとは、召会を着て召会生活をするということです（エペソ 4:22、24）。

これは、主が今日、到達することを願っている目標です。彼がわたしたちをあわれんで、この目標に向かって導いてくださいますように。わたしは近い将来、主があらゆる場所の召会をある状態へともたらせてくださり、その中でキリストを愛する多くの者が、彼の力、命、恵みを経験するだけでなく、彼のパーソンをも経験すると信じます。こうして、わたしたちは彼に、わたしたちの心の中にご自身のホームを造っていただきます。わたしたちの霊の中の主の霊は、わたしたちの思いに広がって、思いの霊となります（23 節）。この新しくされた思いの霊の中で、わたしたちは以前の生活様式を脱ぎ捨て、新しい人の生活、すなわち召会を着ます。これが起こるとき、花嫁は花婿を受け入れる用意ができます。（召会生活のためにキリストをわたしたちのパーソンとする、第 4 章）

### キリストをわたしたちのパーソンとすることは最も甘い経験である

わたしたちは、その霊が単に力や属性だけではなく、単に聖や命だけでもないことを認識しなければなりません。そうではなく、彼はわたしたちの中でパーソンとして生きています。わたしは、わたしたちがみなこの事柄をわたしたちの霊の中で把握することができるように望みます。これは主の最も深く、最もすばらしく、最も甘い経験です。主のパーソンを経験することは最も甘い経験であり、彼の最も完全で、優しく、甘い経験です。

ガラテヤ人への手紙第 2 章 20 節は言います、「わたしはキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはやわたしではありません。キリストがわたしの中に生きておられるのです」。「もはやわたしではありません」という句は、わたしたちの短気や好みもはや存在しないことを意味するものではありません。そうではなく、それはわたしたちのパーソンがもはや生きていないことを意味します。「キリストがわたしの中に生きておられるのです」という句は、キリストの命、キリストの力、キリストの聖、キリストの愛を指しているものではありません。そうではなく、それはキリストのパーソンを指しています。キリストご自身がわたしたちの中に生きておられます。最終的に、パウロは、「わたしにとって生きることはキリストで」と言っています（ピリピ 1:21）。これは、キリストをわたしたちのパーソンとして経験することです。（召会生活のためにキリストをわたしたちのパーソンとする、第 6 章）

### キリストをわたしたちのパーソンとして召会生活を持つ

わたしたちはクリスチャン生活の初めに主の力を経験しますが、前進するにつれて、彼はわたしたちを訓練して彼をわたしたちのパーソンとして経験させます。わたしたちがこれらの経験の中へと入るとき、新しい人としての召会が生み出されます。召会は今日、単に主の力を表現する器官としてのからだではありません。召会は今日、新しい人であり、この新しい人のパーソンはキリストご自身です。わたしたちはみな、彼をわたしたちのパーソンとしなければなりません。彼のパーソンの中で、わたしたちは召会生活を持ちます。

わたしは、主がわたしたちにこの光を見せて、彼をわたしたちのパーソンとする経験の中へと導いてくださるようにと望みます。わたしたちはからだとしての召会を知るべきであるだけでなく、さらに進んで、新しい人としての召会と、新しい人のパーソンとしての主を見るべきです。わたしたちはこの点に達するとき、主の愛に根ざし土台づけられて、すべての聖徒たちと共に、キリストの広さ、長さ、高さ、深さを会得することができます（エペソ 3:17-18）。この時、わたしたちはまた彼の愛の甘さを知ります。それはすべての知識を超越し、満たされて神の豊満へと至ります（19 節）。こうして、わたしたちは日ごとに古い人を脱ぎ捨て、新しい人を着るのです（4:22-24）。この新しい人は召会生活です。

わたしは、主の霊がさらに明確な言葉をわたしたちに語って、わたしたちにさらに明確な光を持たせてくださると信じます。わたしたちは、召会生活の中におり、キリストをわたしたちのパーソンとする新しい人の生活を持つことが何を意味するのかを見るでしょう。わたしたちの自己が否まれ拒絶されてはじめて、キリストはわたしたちの中で生かし出されます。「生きているのはもはやわたしではありません、キリストがわたしの中に生きておられるのです」（ガラテヤ 2:20）、また「わたしにとって生きることはキリストです」（ピリピ 1:21）。これが新しい人です。これが新しい人の生活です。これが召会です。（召会生活のためにキリストをわたしたちのパーソンとする、第7章）

### 神聖な啓示の高嶺にしたがった神・人の生活をする

わたしたちはそのような神聖な啓示の高嶺を見たので、見たことを実行へと移す必要があります。わたしたちの実行は成功し、その成功は新しい復興となるでしょう。それは最高の復興であり、おそらく主が戻って来られる前の、最後の復興となるでしょう。前の章で言ったように、わたしたちは模範を必要とします。それは単に、ある個人が模範になる必要があるという意味ではありません。わたしが言うのは、わたしたちは団体の模範、からだ、神・人の生活をする人々が必要であるということです。今日からわたしたちの実行は、神・人の生活をするべきです。それは、キリストの復活の力を認識することによって、彼がされたように彼の十字架を取り、十字架につけられ、彼の死に同形化され、毎日、他の方の命を生きることによります（ピリピ 3:10、1:21、ガラテヤ 2:20）。わたしたちの命、自己、肉、天然の人、わたしたちのすべては、すでに彼によって十字架にもたらされました。今やわたしたちは彼を生きているので、彼の十字架にとどまって、瞬間ごとに、生活のあらゆる部分で、彼の死の原型に同形化されるべきです。それは自然に、復活としての彼（ヨハネ 11:25）を生きるようにさせます。これが神・人の生活です。

これは今日から、わたしたちの召会の実行となるべきであり、またそうならなければなりません。もしそうでないなら、わたしたちはむなしいことを実行しているのです。わたしたちの実行は、単にすべて聖書にしたがった召会生活、浸水によってバプテスマし、宗派を放棄し、頭のおおいを実行し、主の食卓を持って、絶対的に聖書にしたがった召会生活を持つことではありません。ある人は、これらの実行のゆえに回復へと入って来ました。彼らはわたしたちの家庭生活、召会の集会、若い人を訓練する方法を評価しています。しかしながら、これらのことは、わたしたちの実行の目標であるべきではありません。わたしたちの実行の目標は、神・人の生活をするべきです。これが、わたしたちが到達すべき目標です。

わたしたちの実行は、どのような種類の天然の人の、善か悪かの生活をするということでもありません。わたしたちの実行は、神・人の生活をするということです。神・人は、再生され、造り変えられて神と一になり、神を自分の命、パースン、すべてとしている人です。最終的に、この人は、神格においてではなく命と性質において神となります。これが神・人です。今日、回復の中で、わたしたちはこのような神・人の生活をするを実行すべきです。この生活は、復活によって、復活の中で、復活と共に十字架につけられた生活です。それが、わたしがキリストと共に十字架につけられた生活であり、生きているのはもはやわたしではなく、彼がわたしの中で生きておられるのです（ガラテヤ 2:20）。しかも、彼がわたしの中で生き、わたしと共に生きるとき、その結果わたしは彼と共に生きます（ヨハネ 14:19）。彼はわたしと共に生きられ、わたしは彼と共に生きます。わたしたち両者はミングリングによって、神と人のミングリングによって共に生きます。

最高の家庭生活、結婚生活、社会生活は、このような生活から出て来ます。この生活は召会の生活であり、キリストのからだの生活です。そのような生活が、キリストのからだの実際です。主イエスが地上で三十三年半生きられたような生活が、わたしたちをすべての消極的な事から、小さな事や大きな事から救います。わたしたちの結婚生活において、それは別居や離婚から救います。召会の中で、それはわたしたちを意見、分裂、軽べつ、非難、つぶやきから救います。この生活には、非難、軽べつ、えこひいき、分裂、異なる見解、意見はありません。そのような生活の中で、わたしたちは神・人の生活をします。彼にあるものは、すべてが新しく、すべてが天的で、すべてが神聖であり、神性は人性とミングリングされています。

分裂のある所はどこにでも、霊的な姦淫、偶像崇拜、自己に栄光を帰すこと、自己を高く上げることがあります。自己を高く上げることなしに、分裂はあり得ません。神・人の生活をするとは、わたしたちをすべての消極的な事柄から救います。このような生活をするのは、神・人の原型であるキリストを生きることです（ピリピ 1:21）。

愛する聖徒たち、これがわたしの負担です。わたしたちは年長者も若者も、兄弟も姉妹も、長老も一般の聖徒たちも、みなこのような生活をする必要があります。そうするなら、わたしたちは聞いたことに忠信です。そうすれば、主は個人の原型を持つだけでなく、わたしたちの団体によっても原型を持たれます。これが、主が今日のキリスト教に示される必要のある原型であり、彼の召会があるべき原型です。

わたしたちがそのような生活をしているなら、必ず出て行って人々と接触し、福音を宣べ伝えるでしょう。バイタルグループは、このような人々のグループです。バイタルグループは、形式として実行されるべきではありません。それは、そのような生活をする人々のグループであるべきです。わたしたちが神・人の生活をするとは、人を救い、人を啓発し、地方召会を建造し、さらにキリストのからだの建造にまで至ります。

わたしたちが聞いてきたことを実行するなら、自然に原型が建て上げられるでしょう。この原型は、召会の歴史の中で最大の復興となるでしょう。わたしは、この復興が主の再来をもたらすと信じます。

結びにおいて、わたしはあなたがたが、主の御名を呼び求めることを通して主と接触し、彼の生ける言葉を祈り読みし、絶えず祈り、その霊を消さず、預言を軽んじないことによって、神・人の生活をするを忠信に実行するようにと励まします。主がわたしたちを、



命を与える霊としてのご自身をもって祝福してくださり、わたしたちがこれらの生活の実行によって、ミングリングされた霊の中で彼と接触することができますように。(神の啓示の高嶺にしたがった生活をする、第5章)